第 21 回年次大会予稿

情報教育支援の実践報告 ～お茶の水女子大学附属図書館

ラーニング・コモンズにおける学生支援～

A Practical Report of Support for Information-related Education in the Learning Commons at Ochanomizu University

當間亜紀子¹, 池田佳奈子², 桑名杏奈^{3*}

Akiko TOMA¹, Kanako IKEDA², Anna KUWANA^{3*}

1, 2 お茶の水女子大学 Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 情報基盤センター

E-mail: (1) toma.akiko@ocha.ac.jp, (2) ikeda.kanako@ocha.ac.jp

3 お茶の水女子大学 Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 理学部3号館3階310室

E-mail: kuwana.anna@ocha.ac.jp

*連絡先著者 Corresponding Author

テーマ「情報教育」「情報リテラシー」として、お茶の水女子大学附属図書館にあるラーニング・コモンズ(コンピュータ等を使える自習スペース)における学生支援の取り組みの紹介と実践報告を行う。ラーニング・コモンズには大学院生が支援者(ラーニング・アドバイザー)として常駐している。筆頭著者はラーニング・アドバイザーを2年務め、現在はラーニング・コモンズの機器の管理をする情報基盤センターにて勤務している。利用者、支援者(ラーニング・アドバイザー)、管理者(情報基盤センター職員)を順に経験してきたそれぞれの視点から、ラーニング・コモンズにおける情報教育支援について実体験・実例を交えながら報告する。

Students can study by themselves using computers at the learning commons. Graduate students stay at the learning commons as supporters, called learning advisers. The first author worked as a learning adviser for 2 years. Afterwards I am working at IT center, the unit for preparing and maintaining information technology device in the learning commons. This is a practical report of support for information-related education in the learning commons at Ochanomizu University, based on experience as a user, an adviser, a staff, respectively.

キーワード: 情報教育, 情報教育支援, 情報リテラシー, ラーニング・コモンズ, ラーニング・アドバイザー

Information-related Education, Support for Information-related Education, Information Literacy, Learning Commons, Learning Adviser

1 はじめに

本稿はお茶の水女子大学附属図書館ラーニング・コモンズ（以下LC）において日頃行われている情報教育支援の取組に関するものである。情報知識学会のテーマ[a]の中では「情報教育」「情報リテラシー」に該当すると思われる。

1.1 「ラーニング・コモンズ」とは

明確な定義はなされていないが、多くの文献や論文でその必要性や意義について述べられている[1-3]。2006年に日本に初めてLCを紹介した米澤[4]はLCを「ネット世代の学習支援を行う図書館施設もしくはサービス機能」という言葉で表現している。LCが早くから発展してきたアメリカでは「ラーニング・コモンズ」について、その前身である「インフォメーション・コモンズ」との違いも含めて厳密に区別・定義しようとする議論もあるが[5]、日本では大学独自の名称をつけたり、特定の名称を付けなかったりと様々である。設備としてはコンピュータやLANなどの情報環境、数人のグループで学習できる机やブース、気軽に談笑できるカフェやラウンジ、小規模な講演会などのためのプロジェクトが使える場などが共通して挙げられる。もう一つLC(的なスペース)に重要な要素として、人的支援が挙げられる[1/p7][6][7]。従来の図書館員によるリファレンスサービスに加えて情報機器のサポート、キャリアやアカデミック・ライティング（レポートや論文の書き方）に関する相談を受けるサービスなどを実施している大学が多い。

1.2 本学のLCの概要

本学では附属図書館[b]1階全体が「ラーニング・コモンズの的なスペース」である。情報

機器を備え付けた「ラーニング・コモンズ」、数人のグループで学習できる机と必要に応じて小規模な講演会が行える「キャリアカフェ」、談笑や簡単なイベントの場としての「ラウンジ」がある。据付型のコンピュータだけでなく、附属図書館2階にはICチップ付きの学生証でノートパソコンを自動貸出・返却できるロッカーが設置されている[8-9]。ロッカーパソコンと呼ばれており当日に限り図書館内で自由に利用できる。図書館は全域で無線LANが利用可能なため、ラウンジで友人と相談しながら作業したり、LCでLAに質問したりのほか、静かな自習スペースで集中して、あるいは図書閲覧スペースで資料を書架から借りながら等、様々な形態でノートパソコンが利用されている。LCでの人的支援としては、「ラーニング・アドバイザー（以下LA）」という名称で大学院生に情報機器のサポート役として常駐してもらっている。

図1にLCに関わる学内部署や人物、プロジェクト等を簡単に述べる。詳細は本学図書館職員による既報[10-12]、情報基盤センター（以下ITセンター）職員による既報[13-16]をご参照頂きたい。ITセンター[c]では、LCで使われる機器の設置・管理を行う。LAはLCに常駐し、質問の対応など直接的な利用者支援を行う。LAは基本的に1人であるため、LAが不在のときや別件にかかりきりになっているときに図書館職員にLC利用者の対応をしてもらうことも多い。逆にLAが図書館業務への協力をすることもある。

パソコン活用室では学部1年生に対し丁寧な個別指導や講習会を開催し、コンピュータについて基礎から指導を受けられる[d]。パソコン活用室とLAは、文科省特別経費プロジェクト「学生主体の新しい学士課程の創成」の支援により運営されている[e]。

図1 LCを取り巻く人物・部署

1.3 本稿の概要

本稿では、利用者・支援者（LA）・管理者（ITセンター職員）を順に経験してきた筆頭著者[f]が、それぞれの立場からみたLCにおける情報教育支援について報告する。なお本稿内の記述は筆者個人の経験に基づく実践報告であり、大学としての見解と必ずしも一致しない場合があることをご了承願いたい。

2 利用者・支援者・管理者 それぞれの視点からみたLC・LA

立場による見え方の変化ということを意識してLC・LAの現状や問題点などをまとめた。1人の視点から見た事例の羅列に留まらないように、桑名・池田からインタビューを受けるような形で内容を深く掘り下げながら経験を話し、文章として再構成したものである。

2.1 LCとの関わり

2.1.1 経時変化

利用者時代：2007年4月LC設立と同時期に
本学大学院の修士課程に進学。専攻は音楽学。
翌年2008年4月から音楽専攻の同級生がLAに
就任し、彼女らの話でLCの存在を知る。自分
のWindowsノートPCを持ち込んでの作業が主
で、LCの端末を使うのは印刷したいときなど
時々であった。LAにPC操作（自分のPC、LC

の端末共に) について質問した。

支援者時代: 2009年4月に博士課程に進学。
LA勤務をしていた同級生らの卒業に伴いLA
に就任。LA勤務時以外にもLC・LAを利用して
いた。LAとして内情を知って以降LCが使いや
すくなり、利用者時代よりもLCの利用率があ
がったように思う。LA就任以降、後輩にLC
の宣伝をすることもある。

管理者時代：2011年4月ITセンターのアカデミック・アシスタント（以下AA）として就任。LAの勤務時間の調整や事務手続きを主に、LCの機器・器具の管理補助を行う。

2.1.2 LA就任の主な理由

直接の理由は同級生の修了に伴いLAを紹介されたからであるが、利用者時代からLC・LAに親しみはあった。学内でできる仕事ということで往復時間の点でも魅力であった。

2.2 それぞれの立場から見たLA

利用者時代：一言でいえば「パソコンのお姉さん」。基本的に情報科学専攻の院生がLAをするもの（音楽専攻の同級生はとても特殊なもの）だと思っていた。

支援者時代:様々な専攻の院生がLAとして働いていることがわかった（付録に追記）。

管理者時代: LAとの直接またはメールのやり取りを通じて個人の為人を知った。

2.3 ITスキル

初めてコンピュータに触れたのは1999年、家族共用のWindows98（インターネット接続有）であった。以降、MS Word・Excelには定期的に触れていた。Mac OSはLCが初めて。

LA時代は勤務中にOfficeの本を読んだり、他のLAが書いた作業報告（Moodle[g]を利用）を遡って読んだりして勉強していた。自分では解決できない質問を受けたときも、すぐにITセンターに内線で助けを求めるのではなく、ウェブで調べたり作業報告を遡ったり検索したりして、まずは自分で調べる努力をしていた。勤務を通して幅広いITスキルが身についたと思う。研修を担当した先輩LAである音楽科の同級生から、調べる手段（Officeの本にどんなことが書いてあるのか。質問を受けた時に本がどう役に立つのか。他のLAが書いた作業報告に似たような質問と解決法が載っているかもしれない。よくある質問はITセンターのウェブページにもまとまって載っているなど）を教えてもらった。それが自分で勉強をするうえで役にたった。

2.4 LAとしてのスキル

支援者時代：利用者の目線に立って、どこで引っかかっているのかを理解し、利用者の求めるレベルに応じて、可能であれば利用者が別の問題にも応用できる形で説明するよう心がけてきた。仮にLA就任時のITスキルが高くなかったとしても、努力すれば勤務の中で徐々に身につくと思う。

管理者時代：LCの機器の不具合をITセンターに伝えるのもLAの重要な役割の一つである。LCはじめ学内の大量の情報機器をこまめに維持管理することは、ITセンターの少人数の教職員では難しい。LCに常駐するLAからの

定時報告によりITセンターではLCの不調端末などへの迅速な対応が可能となる。

LA時代は「利用者が求めていること」を理解しようと努力してきたが、「ITセンターが求めていること」は意識することがなかったと思う。たとえば、ある1台の端末に付いているマウスが壊れていた場合、ITセンターとしては壊れたマウスを交換に赴く必要があるが、LAがただ「壊れています」と作業報告に書いただけでは、LCにある70台近い端末のどのマウスが壊れているかわからない。LAが「○番の端末のマウスが」壊れている旨を記載すれば、ITセンター側の作業はずっと楽になる。作業報告記載時に端末番号を書くようにと言われてはいたが、その意図については管理者側になって初めて意識したことであった。

2.5 LA制度の意義

個人の視点：情報機器について積極的に学ぶ機会を得た（LAをやらなかったらずっと避けていたかもしれない）。利用者の問題が解決した時や、対応した利用者がこちらの顔を覚えていてLC外でも声をかけてくれたときは単純に嬉しくて、モチベーションの向上になった。わからないことを質問されたときは、利用者に申し訳なく思うこともあったが、更なる勉強のきっかけになった。

利用者の視点：いつでも気軽に質問できる。

支援者の視点：自分の所属する組織以外の組織や人について知ることができた。

管理者の視点：リベラルアーツの流れを汲む「学生主体～」プロジェクトの意義にも合致するものと思われる。21世紀の社会に必要とされる教養として、情報機器を使いこなす技術は必須のものであるが、LA制度はその情報教育の一端を担うものと期待できる。

2.6 LA制度の問題点

利用者の視点：いつでも質問できるというメリットと逆に、急にいなくなれると困る。「何時から何時まではいません」などの予告が欲しい。LA不在の状態が数分だけなのか数時間続くのかが分かれば、今、LAが戻ってくるのを待つべきか、一旦帰ってまたの機会に質問に行くべきかの予定が立てられる。掲示などがあるといいと思う。

LAの視点：授業期間中は21時までLCは開いているが、ITセンター教職員・図書館職員・大学窓口などは21時まで人がいるとは限らない。そんなときに自分の手に負えない問題が発生したらと思うと不安であった。また、間違った対応をとったために利用者に被害が及んだら責任を取れないと思い、特に成績や就活に直結する質問に対しては緊張する。

管理者の視点：新任LAの研修は先輩LAの勤務に同行し、基本的な勤務の流れやLCの機器の概要の説明を受ける形式であるが、それでは2.4の「ITセンターがLAに求めていること」は分からない。さらに研修担当者によってはLAイコール「学内でできる割のいいバイト」程度の認識に甘んじる危険もある。先輩LAによる研修に加え、ITセンターからの研修もあるとよいと思う。研修の際、他のLAと実際に顔を合わせることで仲間意識の芽生えや現状の問題点の認識・共有、LA勤務へのモチベーションの向上、他専攻の院生とのつながりができる可能性がある。

3 まとめ

利用者がLAに望むこと、LAがITセンターに望むこと、ITセンターがLAに望むことなど、すべての立場を体験した者でなければ見え

ない現状や問題点をまとめることができた。

また「LAを経験した院生の成長の可視化」は前報[16]で提起された問題であるが、本稿のような聞き取り調査によるまとめは、成長の可視化手段の一つの形態として提案できるのではないかと思われる。

謝辞

日々の円滑なLCの運営に尽力されている、附属図書館・ITセンター・LA・パソコン活用室・プロジェクト「学生主体～」をはじめとする関係部署の方々と、寛大なご協力を頂いている利用者みなさんへ、この場を借りて御礼申し上げます。

付録

情報学専攻だけでなく、様々な専攻の院生がLAとして働くことについて：LCにはテクノロジーについての質問に対処できかつ研究支援をも提供できるような多能なスタッフか、あるいは両方の専門家を配置する必要がある。利用者の要求に応じて開館時間は長くなるが、資金不足の大学図書館では適切な人材あるいは訓練が不足することが多い。そこで大学院生のアルバイトに頼ることになる[1]。2013年4月現在LA在職者は計21名、専攻の内訳は心理3名・音楽2名・物理8名・化学5名・生物1名・情報2名と多岐に渡り、様々な専攻の利用者に対して研究支援を提供できる。同じ専攻・学科の人であれば、質問の答えとして求めている内容やレベルを推察しやすいメリットもある。質問内容以外の、専攻・学科に特有な行事・授業のことなどを後輩に教えることができる可能性もある。

注記

- [a] 情報知識学会
<http://www.jsik.jp/?honkai>
- [b] 附属図書館
<http://www.lib.ocha.ac.jp>
- [c] 情報基盤センター
<http://www.cc.ocha.ac.jp>
- [d] パソコン活用室
<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/>
- [e] 学生主体の新しい学士課程の創成
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/home/>
- [f] 情報科学系・理系の学生は、研究室や学科のコンピュータ室を使う場合が多くLCを使う機会が少ないため、利用者・支援者・管理者のすべてを経験する者は少ない。
- [g] Moodle <http://moodle.cc.ocha.ac.jp>

参考文献

- [1] 加藤信哉；小山憲司：「ラーニング・コモンズ 大学図書館の新しいかたち」，頸草書房，2012.
- [2] 山内祐平ほか：「学びの空間が大学を変える」，ボイックス株式会社，2010.
- [3] 「名古屋大学附属図書館研究年報 第7号『特集：ラーニング・コモンズ』」2008.
- [4] 米澤誠：「インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」，カレントアウェアネス，NO. 289，pp. 9-12，2006.
- [5] Scott Bennett: "The Information or the Learning Commons: Which Will We Have?"，Journal of Academic Librarianship, 34(3), pp.183-185, 2008.
- [6] 井上真琴：「学びのマネジメントを支援する」，IDE 現代の高等教育，no. 510，pp. 12，2009.
- [7] Donald Robert Beagle: "The Information Commons Handbook"，2006.
- [8] 笹倉理子；浅本紀子：「学生生活の支援としての PC 貸出サービス」，2012PC Conference，2012.
- [9] 笹倉理子；浅本紀子：「学生に対するパソコン貸出サービスについて」，高等教育と学生支援，3，投稿中，2013.
- [10] 餌取直子；茂出木理子：「お茶の水女子大学附属図書館における学習・教育支援サービスのチャレンジ：図書館の学習・教育支援サービスに限界はない」，大学図書館研究，83，pp. 11-18，2008.
- [11] 茂出木理子：「ラーニング・コモンズの可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ」，情報の科学と技術，58(7)，pp. 341-346，2008.
- [12] 廣田未来：「お茶の水女子大学附属図書館の学生支援：ラーニング・コモンズとLiSA プログラム」，情報の科学と技術，61(12)，pp. 489-494，2011.
- [13] 桑名杏奈；池田佳奈子：「ラーニング・コモンズにおける学生支援」，高等教育と学生支援，2，pp. 77-80，2011.
- [14] 池田佳奈子；桑名杏奈：「お茶の水女子大学附属図書館内ラーニング・コモンズにおける情報機器と学生支援」，2012PC Conference，2012.
- [15] 池田佳奈子：「学生の縦のつながりを生かした学生支援～授業「内」と授業「外」の中間の視点から～お茶の水女子大学附属図書館内ラーニング・コモンズを例として～」，第18回FDフォーラム，2013.
- [16] 池田佳奈子；桑名杏奈：「ラーニング・コモンズにおける学生支援（2）：第18回FDフォーラムでの報告をふまえて」，高等教育と学生支援，3，投稿中，2013.